

北部少年野球部

▼「今年も頑張る」と、みんなでガッツポーズ！



勝つことより基本基礎を身に付けて！

JA杯学童オリンピック軟式野球大会準優勝

『北部少年野球部』は、小学3～6年生21人で、木曜日以外毎日行う練習は、みんな熱心に取り組んでいます。暗くて寒い冬場の練習も、発電機をつけて夕方遅くまで頑張り、土・日は、他チームとの練習試合で経験を積んでいます。

武富祐二監督と2人のコーチは、「挨拶」、「礼儀」、「道具を大切に使う」、「野球をさせてもらっていることに感謝」の心を子どもたちに指導。「勝つことより基本基礎を身に付けてほしい」をモットーに、目標は「NTT杯と学童オリンピックの2大会の県大会に出場」を掲げ頑張っています。今年度は両方とも県大会に進み、11月にあったJA杯学童オリンピック大会では、県大会準優勝に輝きました。武富監督は「中・高校生になっても野球を続けて、友達や仲間を増やしてもらいたい」と、年毎に強くなっている子どもたちにエールを贈りました。新入部員も募集中です！

☎ 武富祐二 ☎ 74-4013

●連載10● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

佐賀県重要文化財『立葵蒔絵螺鈿箏』

筑紫箏は安土桃山時代に諸田賢順(1547～1636)によって創始されたといわれる箏曲です。それまで他の楽器との合奏で使われていた箏を独奏で使用したものが、現在の箏曲の起源とされています。賢順は龍造寺長信に従って多久に来て、多久領主の夫人や娘たちに箏を教えたため、多久にも筑紫箏が受け継がれていました。

多久初代領主多久安順の妻千鶴は、筑紫箏の名手として知られていました。弟である佐賀初代藩主鍋島勝茂が京都・伏見城で婚礼の際、勝茂の付き添いとして伏見に行った千鶴は、評判を知った後陽成天皇から宮中で演奏するよう求められます。しかし恐れ多いことと考えた千鶴は言い訳として「すでに帰郷した」と返答しました。さらに「使用の箏があれば見たい」との仰せがあり箏のみをお見せしたところ、「鳳凰」という銘と勅筆の和歌を賜りました。「鳳凰」銘の箏が、この『立葵蒔絵螺鈿箏』であるといわれています。

天正5年(1577)に作られたこの箏は、全体が美しい蒔絵で彩られています。同じ時期の他の箏と比較しても異なる点があることから平安時代の形態を残したものと



考えられ、またこのような全面漆塗りの箏はきわめて珍しく、工芸的にも優れていることから県の重要文化財に指定されています。

▲郷土資料館の筑紫箏展示コーナー（上段が立葵蒔絵螺鈿箏）

『多久市郷土資料館』

開館時間 / 9時～16時 入館 / 無料
休館日 / 月曜日(月曜が休日の場合は開館し翌火曜休館)

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

市民文芸

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

生垣のすき間より覗く水引草
控えめに咲く紅の花
浦野 嘉恵

一陣の風にスカーフ飛ばされて
拾ひくれし人の温もり残る
本村 則子

紅葉を見にも行けずに山見つつ
思い浮かべて草引きをする
本田 静香

聖廟の祭太鼓のひびきききて
足取り軽く踊る氣分に
梶原恵美子

同質を彼に見つけし旅なりき
十五の心に芽生えいしもの
尾形 節子

俳句

《楷樹句会 互選》

捨てきれぬみすずの古き層かな
不二見恵美子

書初は曾孫命名となりたりて
野田キヌ子

御慶より検温始むナースかな
森山 袍石

初風や男波女波の相むつみ
納富 芦風

千し柿のまだ柔らかき肌をもむ
金子 文子

川柳

《多久市川柳会 互選》

オレオレとオレが云つても母は切り
松下 修

七十億たった一人の好きな人
木下 ユキ

赤いマフラー笑顔になった地蔵さま
井上 東子

もくもくと磨いた技に金メダル
高塚ちか子

名工の技千年を越えて生き
西山 残月